

第29回 家事・ケア労働とSDGs

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田真里

1. 家事・ケア労働はSDGsの実現に重要

家事や子育て・介護等のケアはジェンダー平等にかかわるSDGsの目標4に関連しています。前回のおさらいですが、目標4を具体化したターゲット5・4には「各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児介護や家事労働を認識・評価する」とあり、その進捗をはかるグローバル指標には「5・4・1 無償の家事・ケア労働に費やす時間の割合（性別、年齢、場所別）」とあります。つまり、家事・ケア労働への取り組みが、SDGs目標4のジェンダー平等の実現に重要といえます。以下、具体的なデータを見ながら、検討しましょう。

2. 無償の家事・ケア労働時間の国際比較：際立つジェンダー格差

SDGsの指標5・4・1「無償の家事・ケア労働に費やす時間の割合」について、生活時間の国際

比較の視点から、ジェンダー格差を見てみます。一般に先進国とされる経済協力開発機構(OECD)の加盟38カ国における、男女(15歳~65歳)の無償労働つまり賃金が支払われない労働について、一日当たり(週平均)の時間の国際比較で見えてみましょう(以下、内閣府(2020)『令和2年版男女共同参画白書』より)。

無償労働時間のOECD全体の平均は、女性262分、男性136分となっています。女性のほうが、約2倍長いですね。他方、男性の無償労働時間が最も短いのは日本の41分で、イタリアの131分と比べると、3分の1以下となっています。また、女性と男性の無償労働時間ギャップを比率でみてみますと、日本は5.5倍も女性のほうが男性より長い時間を無償労働に従事しています。韓国も4.9倍と大きいですが、他の先進国は約2倍かそれ以下です。ジェンダー格差が際立って

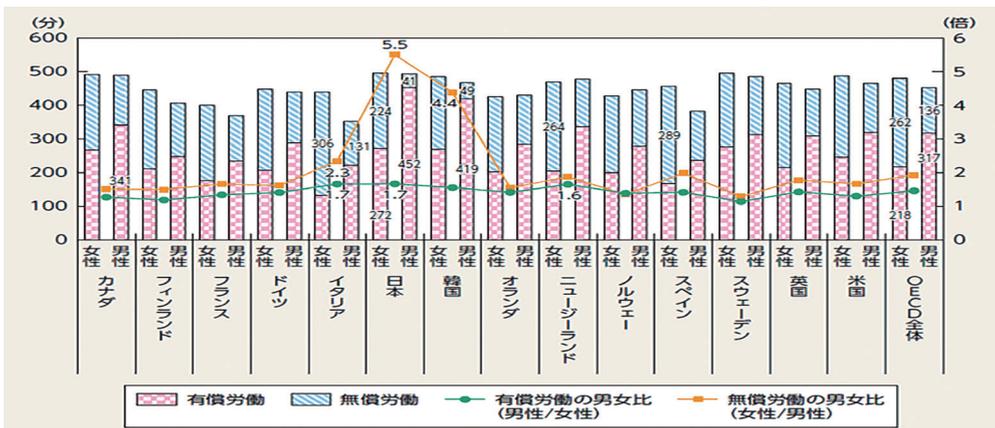
3. 女性も男性も、このままでは持続可能ではない

います。

実は日本は女性だけでなく、男性も大変な状況で、このままでは日本社会全体が持続可能でないのでは、と深刻に懸念されます。無償労働に加え、賃金が支払われる有償労働についても見てみましょう。有償労働時間のOECD平均は、女性218分、男性317分となっています。中でも日本男性は452分と際立って長く、OECD平均の約1.4倍も長く働いています。なお、日本の女性は有償労働においても272分と、OECD平均より50分以上長く働いています。家での家事や育児・介護の時間が長いから外で稼いでいない、ということではありません。最後に、有償・無償を合わせた総労働時間を見てみると、国際的にみて日本が女性(496分)、男性(493分)と最も長時間労働です。総労働時間は女性のほうが男性よりも長く働いています(逆ではありません)。つまり、国際的にみて、日本は男女ともに長時間労働であり、特に無償の家事・

図 男女別にみた無償・有償時間の国際比較 (一日当たり、週平均)

出典：内閣府(2020)



ケア労働が極端に女性に偏りジェンダー格差が大きく、かつ長時間であることが大きな問題といえます。